

キリスト者障害者通信

き ぼ う

No.83
2024.●●

特定非営利活動法人兵庫共励会
〒672-8045 姫路市師磨区中野田四一二六三八
電話 〇七九一二三五八八一
FAX 〇七九一二三五八一
振替 〇一一五〇一五〇四二七五八
印刷所 新 生 会 作 業 所
発行所 廣 田 守 男

「何ごとも愛をもって」



本宮 広 牧師

日本基督教団畦野教会 本 宮 広

「コリントの信徒への手紙Ⅰ 16章13〜14節」
「コヘレトの言葉 8章16〜17節」

主の恵みが共にありますように。

共励会の皆さまとどんな事を一緒に聖書から聞いたらいいかと、ご依頼を受けてから、そして今も戸惑っています。兵庫教区の教会に遣わされて、2年目を迎えています。

もともと、仕えております畦野教会は兵庫県でも北摂 北摂津と言える箇所でありまして、神戸よりも大阪につながるかなという地域です。教会は住宅団地の中にありまして、地域の開発が進んで、50年が立ちます。土地を買って家を建て、大阪などへ通勤していた方

たちは高齢となり、次の世代の方たちはそれぞれに暮らしておられ、ちらほら新しい家も立ち、かつてより少ないのですが子供もいるにはいるのですが、全体として高齢化した地

域です。ですから、私たちの教会も後期高齢者が大半の高齢化した教会です。これまで、いわゆる地方の教会、長野県だったり、和歌山県だったり、静岡県などの教会に、その中でも、交通の便利の良くない教会に遣わされてきています。大都会から遠くない所にも高齢化した地域の高齢化した教会が存在し、いわゆる地方の教会とは共通の課題と、そして同時に、別の課題もあるだろうなと戸惑っているところです。

本日、コヘレトの言葉 古い聖書では伝道の書から御言葉を聞きました。コヘレトとは、旧約聖書の知恵者の事です。1章1節によれば、ソロモン王とも思えるダビデ王の息子で、

この書は彼の言葉です。この知恵者は、途方もない人です。それが本日の個所に語られています。コヘレトは地上で起ることのすべてを見極めようと心を尽くし、昼も夜も、眠らずに神さまの業を観察した と言うのです。すべてのことを悟ろうとしたが、「それは出来ない」と告白しています。「人間がどんなに労苦して追求しても、悟ることは出来ない」と語られています。

私たちは今何も見極められない時代に生きているように思います。何をどうしても、うまくいかない。何がおこるか分からない。そんな不安を抱く不安定な時代に生きています。同じ問題にもどう対処しようか、正解がわかりません。新型コロナウイルスの感染が今やつと収束してきました。最も今も感染する方は存在します。忙しく働いておられてなかなか教会に来られない、貴重な50代の方が昨年の秋、コロナになりました。それでもかつてようには、コロナ感染症は脅威でなくなっています。感染者数が減らず、また増加していることに怯えていたかつての日々がありました。私が暮らしていた地方では、少なくとも私はあんまりコロナ感染を恐れずに生きました。でも、教会のある川西市に來ますと、会員の方は7回とかコロナ対策のワクチンを打っておられます。人の密度の違いがあります。私より先に、一昨年地方の教会か

ら神戸の教会に転任されて、1 年間は教会から離れることなく、引きこもっておられた牧師先生もおられました。コロナ対策での逼塞は終わってよいのか、どうなのか。マスクはどうしましょうか。とまどいが抜けないのです。何かを悟っていきることは出来ない、不安や戸惑いと共に私たちは歩まされるものだとそんな覚悟が私たちに求められているのだらうと思います。神さまだけがすべてをご存じですし、神さまのご計画だけが実現するのです。

戸惑いと不安、見通しの立たない置かれていることを覚えている中で、聖書から励ましの言葉を聞きたいと願うようになりまして、今回の聖書の言葉を、コリントの教会に当てられた手紙から、聖書の言葉を与えられました。コリントの教会は、ご存じの方も多いように、様々な点で一致のみられない教会、むしろ分裂した教会でした。どうなっていくか、どう考えていくか、いろいろな課題がありました。コリントに最初に伝道したパウロに様々な質問をしました。何しろ、今と違って、世界の中でキリストの福音はまったく知られていません。ご存知のように、ある程度信者の群れ、教会ができると、パウロたちは伝道の旅を続けました。あの町でもこの町にも、まったく福音は伝わっていなかったのです。パウロたちだけが伝道していたわけではあり

ません。でも、パウロたちの伝道の旅は当時の広い範囲で続けられました。パウロたちが伝道の旅を進めていく間に、他の伝道者がパウロの伝道した教会にやってくることもありました。コリントの教会ではまず、誰につくのか、グループみたいなのがあったようです。人につくことではなく、キリストに聞き従うことをパウロは願っていました。そうならざるを得ないかと思う事情がありました。今日と違って当時の都市は、城壁に囲まれ、大勢が集まれるような建物はありません。ユダヤ人はシナゴークを建てて集まっていました。パウロたちはまずシナゴークで伝道したのですが、対立が生じ、シナゴークのユダヤ人が皆パウロの伝える福音を受け入れるわけではないので、そうなるのですが、個人の住宅の場所に移す場合があった。使徒言行録を読めばわかります。教会の人数が増えれば、何人もの人が住宅を解放したことでしょう。家の教会が複数集まって、コリントの教会があったと思うのです。それぞれの家の教会がグループ化し、誰につくかということになります。このような教会の姿は聖餐に預かる時のことにも及ぶ。集会に家を提供できた人たちは金持ちだったり、都市の偉い人たちでしょう。当時日曜日が休みということはありません。ですから、日曜日の夜に集会は持たれたのでしょうか。教会には日中労働して集う

人たちもいた。けれども、その日にも仕事をしなくてもよい人もいた訳です。手紙を読むと、働いている人が集まってくるのをまたずに聖餐に与っていた人たちに対するパウロの戒めの言葉がでています。コリントの教会には、指導しようとするパウロに反抗する人たちの声もあります。パウロは、自分への非難や聖餐の守り方のみならず、結婚のこと、礼拝でのかぶり者についてなど、もろもろの問い合わせを抱えていて、そこに対応することが求められました。時には、彼は激しい言葉を浴びせます。「主を愛せないものは呪われよ」とも言うのです。

こんな教会の姿には、戸惑いを覚えるかたもおられるでしょう。コリントの教会はどうなるだろう。繰り返し、パウロは手紙を送ります。現在は失われた手紙もあります。

混乱しているコリントの教会ですが、パウロが伝道していたこの当時、正しい信仰はまだ確立していません。様々な意見の違いの中から、私たちの目が見れば、長い時間をかけて、正しい信仰は確立してきました。別の言い方をすれば、コリントの教会の混乱に対して、パウロの書いた手紙は、神様によって正しい信仰を指すみ言葉として用いられることになりました。そこから、正しい信仰は確立していくことになります。世界の教会が告白する信条が世界の教会の会議で成立します。

本日聞きましたのは、コリントの教会への手紙の末尾の部分にある勧めです。戸惑いと不安のなかにある者たちへの勧めです。

まず、語られるのは「目を覚ましていなさい。」との勧めです。福音書では、終末への備えの言葉として主イエスが語っておられます。また、ゲッセマネの園で、悲しみ悶えながら祈られる主イエスのそばで眠りこける弟子たちに対しても言われた言葉です。それでも、眠りこける弟子たちにむかって、主イエスは、肉体の弱さを認めておられます。主の苦しみを共に出来ないもの、終末への備えも出来ない者を愛して、主イエスは十字架に死んでくださり、死んでよみがえってくださいました。死が終わりでではない、この希望が信じる者には与えられています。混乱と不安、もうだめだと思える時にも、信じる私たちには「主よ来たりませ。」との信仰が与えられています。どんな時にも、どんな解決が遙かに遠くあり、望みがたくあつても信じるのです。主はやがて来たり給うのです。今日の多くの不安や戸惑いは簡単には解消しないでしょう。でも、神さまは、私たちに希望を与えてくださる方なのです。

次いで、「信仰に基づいてしっかりと立ちなさい。」とあります。既に語りましたように、この手紙は正しい信仰の確立していない時代に書かれました。教会にいろいろと問題、課

題があつたから、正しい信仰がはつきりしたのです。教会はキリストの体です。どんなに混乱や戸惑いがあつたとしても、キリストを信じる信仰はのべ伝えられ、コリントの教会の人たちも信じて、救われたのです。伝えられ、自ら信じた信仰に基づくとは、パウロの言葉に従えば、キリストを土台とすることです。キリストを土台として信仰にしっかりと立つことを勧めながらも、パウロはしっかりと立っているとの過信に立つことの危険も指摘しています。「だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい」とこの部分の前の10章12節に記されています。

神さまは、神の主子イエスは、私たちの弱さをご存じます。だから、この言葉に続いて、パウロは神さまが試練と共に逃れの道を備えてくださることを記します。「あなたがたを襲つた試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせるようなことはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道も備えてくださいます。」

13節。だから、戸惑いと不安の中、分裂と混乱の中でも、弱さを覚える試練の時にも、「雄々しく強く生きなさい」とのパウロは語ります。「雄々しくあれ」との勧めは、不安の中にある者に旧約聖書でも語られている勧め

めです。出エジプトの指導者、モーセの死後、後継者として約束の土地への進出の指導者となったヨシユアに対して、神さまが「雄々しくあれ」と語られたことがヨシユア記の冒頭に記されています。今日的に言えば、男性らしさを強調していると言うよりも、勇気をもつてたくましく、強く生きなさいとの勧めでしょう。ヨシユアへの勧めは、「わたしが共にいる」との神さまの約束が伴いました。強く生きること、倒れないように自分の弱さを認めながら、足場を持つことによって可能でしょう。神さまが共におられるのです。戸惑いの中で、不安の中でも、神さまは歩むべき道を示されることを信じましょう。

でも、その道はどのようなして示されていくのでしょうか。最後に、「何事も愛をもつて行いなさい」と勧められています。「愛」この手紙で「最高の道」と語られ、「愛は決して滅びない」と語られています。13章7節では「すべてを忍び、すべてを信じ、全てを望み、すべてに耐える」と語られています。愛こそが、忍耐と信頼と希望を生むのだと語られています。神さまが私たちを愛してくださるから、試練の中で道は与えられます。不安の中でも、忍耐をもつてキリストの愛に従う、キリストを土台として、強く生き抜く歩みを与えられたいと願います。

「定期総会に出席して」

日本基督教団 神戸愛生伝道所

信徒 栗 林 加津代

久しぶりの共励会でした。

私が入所している神戸愛生園は男性棟はコロナのクラスターが発生していました。幸い、女性棟は感染者がいませんでしたので、私は出席できました。

理事長が廣田守男先生から、吉田裕恵さんに交代する節目の時に出席できたこと感謝です。50年記念誌が出来上がり、記念誌の贈呈があった事も良かったです。

福祉タクシーで一人で行きましたが、タクシー代はタクシーチケットで払うつもりでしたが、いつも赤字の共励会でしたのに、そんなにお金があると思いませんでしたので、びつくりしました。

「秋にはコンサートをするからおいで」と言われ、まるで、夢のような世界に連れて行かれたような気がしました。

私が寂しかったことは、姫路教会の人のいなかった。山本きみこさんも山鳥あかねさんも、幸田さんもお会いしたかった。

菅原博さんは、タクシーと一緒にしあわせの村での一泊研修会に一緒に行きましたのに、いつの間にか天に召されていました。天のみにてまた、お会いできる日がくると信じています。

「ありがとうございます。」という気持ちでいっぱいです。

なつかしい方々や、新しい出会いもあり楽しい一日でした。

ありがとうございます。これからもよろしく願います。

祈り合いましうね。



「新理事長就任のご挨拶」

理事長 吉 田 裕 恵

このたび、諸先生方及び主の大きな憐れみと恵みの中で理事長の働きをさせて頂くこととなりました、吉田裕恵と申します。

去る6月13日（木）本年度総会に併せて開催された理事会において理事長を拝命し、重責に身の引き締まる思いですが、理事長就任にあたり一言ご挨拶申し上げます。

まず初めに、前理事長の廣田守男先生には、理事長在任25年もの長きに渡り重責を担って頂き、ありがとうございます。その間、世界中に猛威をたらした、新型コロナウイルス感染症に翻弄されました。そのため、活動も制限され不自由な時もありました。そしてまた、NPO法人兵庫共励会として、新しいスタートをきりました。

前理事長よりお声を頂いた時に、「私に出

来るのだろうか？」「私で良いのだろうか？」

重責を担うことに不安を感じたのですが、主に祈り、皆様の温かいお声に後押しされ、三代目の理事長を務めさせていただきます。微力ではございますが、主に喜ばれる共励会を共に盛り立てていきたいと願っております。

右も左も分らず至らない私ではございますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

私は、幼い頃に交通事故に遭い、障がい者になりました。また、1995年に、転倒により、顎を強く打ち、頸椎ヘルニアになりました。現在、夫とヘルパーさんに支えられ車椅子を使い生活を送っています。さらにクワガタ・カブトムシのブリードをし、セキセイインコと共に暮らしております。その中で、共励会との出会いがありました。

以前は障がい者はおんぶにだっこという世の中でした。私は頸椎ヘルニアになりましたが、その中で心理カウンセリングを学び資格を取り、コロナ禍においては、主に電話カウンセリングを行っております。

今後は、共励会の理事長として、様々な施設や病院等を訪問し、障がい者の自己実現のサポートを、残された機能を使い、私にしか出来ない、私だからこそ出来る事を模索し、皆様の協力を頂き進めて行きたいと願っておりますので、よろしくお願い致します。

2023年度 事業報告書

1 事業概要

特定非営利活動法人として事業開始して10年目の歩みを進めてきました。

法人の目的は、兵庫県に在住する障がい者と共に励まし合う事を通して、生き甲斐作りと豊かな生活作りを目指す事となっています。2023年度は新型コロナウイルス感染症が、第5類に引き下げられたため、計画していた活動を開催することができました。

当法人の理事を長年されていた古澤輝勝さんの遺言により明石市内にある、シオンビルと土地の遺贈をお受けしたため、兵庫県への定款変更の手続きと、神戸地方方法務局への登記申請に時間を要しましたが、2024年1月に登記を完了しました。新たな障がい者への支援事業を理事会で立案し、財源を生かして行きます。

2 事業報告

計画に掲げた事業について、理事会で議論を重ね、実施することができました。

(1) 研修会は一日研修会を定期総会と同日に開催しました。

(2) 小旅行は、久しぶりに淡路島にバスで行き淡路人形浄瑠璃を鑑賞することができました。

(3) ランチョンは偶数月の第2金曜日に日本キリスト教団神戸聖愛教会で、昼食の後、講師からお話を聞いて交流の時を持つ会を3回開催する事ができました。

(4) 機関紙の発行は、7月と12月に各300部を発行し、会員などに配布いたしました。

(5) 50年記念誌の編集委員会を通算8回開催し、2024年3月に500部発行しました。

(6) 会員宅、福祉施設、病院訪問

新型コロナウイルス感染症のため実施できませんでした。

(7) 相談 特に特別な場は設定しませんでした。ランチョンの交流時等に相談する時を持ちました。

3 総会及び理事会報告

総 会 2023年5月18日

理事会

第1回 2023年4月20日

第2回 2023年6月22日

第3回2023年8月31日

第4回 2023年11月30日

第5回 2024年2月29日

4 特定非営利活動に係わる事業

定款の 事業名	プロジェクト内容	実 施 月 実施回数	実施場所	対象者	収益
障がい者への 支援事業	研修会	5月	明石市生涯学習センター	障がい者・支援者 12名	46,000円
	小旅行	10月		障がい者・支援者 23名	
	ランチョン交流会	4・11・2月 3回	神戸聖愛教会	障がい者・支援者 延べ 名	
	機関紙発行	7月 12月 2回		機関誌 障がい者・支援者 600名	0円
	50年記念誌発行	3月		50年記念誌 障がい者・支援者 500名	
	会員宅・福祉施設・ 病院訪問	中止			
	相談	適宜			

5 その他の事業

不動産の賃貸 事業					3,523,200円
--------------	--	--	--	--	------------

第 2 号議案 特定非営利活動法人兵庫共助会

2023年度活動決算書 (案)

2023年 4 月～2024年 3 月

(単位：円)

科 目	特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合 計
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	64,000		64,000
賛助会員受取会費	49,000		49,000
2. 受取寄付金			
受取寄付金	14,000		14,000
3. 受取助成金等			
受取民間助成金	80,000		80,000
4. 事業収益			
集会参加費等	57,000		57,000
不動産貸付業収益		3,523,200	3,523,200
5. その他収益			
受取利息	3	13	16
経常収益計	264,003	3,523,213	3,787,216
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給与手当	0	0	0
法定福利費	0	0	0
人件費計	0	0	0
(2) その他経費			
講師謝金	19,000		19,000
消耗品費	7,190		7,190
印刷費	546,755		546,755
通信費	44,996		44,996
訪問費	0		0
会場費	21,900		21,900
諸集会開催費	354,800		354,800
雑費	67,600		67,600
その他経費計	1,062,241	0	1,062,241
事業費計	1,062,241	0	1,062,241
2. 管理費			
(1) 人件費			
給与手当			
法定福利費			
人件費計	0	0	0
(2) その他経費			
消耗品費	7,121		7,121
印刷費	4,690		4,690
通信費	8,207		8,207
旅費交通費	520		520
光熱水費・ビル管理委託費等	0	399,950	399,950
保険料	6,360	22,500	28,860
会議費	63,840		63,840
租税公課		1,808,600	1,808,600
雑費(慶弔費・振込手数料等)	27,352	3,960	31,312
減価償却費		868,562	868,562
管理費計	118,090	3,103,572	3,221,662
経常費用計	1,180,331	3,103,572	4,283,903
当期経常増減額	△916,328	419,641	△496,687
III 経常外収益			
土地評価益		956,000	956,000
建物評価益		6,415,700	6,415,700
IV 経常外費用			
当期経常外増減額		7,371,700	7,371,700
差引計	△916,328	7,791,341	6,875,013
経理区分振替額	2,000,000	△2,000,000	0
当期正味財産増減額	1,083,672	5,791,341	6,875,013
前期正味財産額	6,286,960	23,253,563	29,540,523
次期繰越正味財産額	7,370,632	29,044,904	36,415,536

「今城輝雄さんを偲んで」

二見キリスト教会

信徒 谷 合 公 江

今城輝雄兄が2024年1月10日に召天された事を、理事会の報告で知りました。

今城兄は、日本基督教団 姫路福音教会で役員をされていたので、兵庫共励会が地区集会や、総会で教会を使わせていただいた時にはいろいろとお世話をしてくださいました。

兵庫共励会では長年監事をして下さり、私が会計担当の折には、年一回の会計監査を橋本淳子さん宅でして下さり、監査のあと茶菓を頂きながらの讚美と祈りの楽しい交わりの時を持って下さり、感謝でした。

今城輝雄兄の一番の思い出は2025年に橋本淳子姉とご結婚された事です。橋本淳子姉は、身体に障がいを持たれて、兵庫共励会の初期から集会に参加されていた大切な存在の方でした。

橋本淳子姉が車椅子を使って、お一人暮らしをされていたのを助けたいとの思いで結婚されて一緒に生活されることになりました。今城輝雄兄は、自家用車の助手席を純子さんが乗りやすいように改造して兵庫共励会の集会や朝拝会の全国大会等で、北海道から沖縄まで、一緒に旅行をされました。

2018年頃から淳子さんの足の腫れと痛みがひどくなり、病院に入退院を繰り返されましたが、2012年2月7日に天に召されました。

その後、今城輝雄兄は、加古川のご自宅に戻られて、お一人での生活をされるようになりました。

コロナ禍中で、兵庫共励会の各種の行事が休止となる中、届いたお頼りには、一人暮らしの寂しさの中で、毎週教会に行くのが楽しみにしていると書かれていました。

今城輝雄さんは兵庫共励会の活動の中で、橋本淳子さんと出会い、一緒に生活して助けたいとの思いで結婚され、お二人で励まし合いながら、信仰生活をされたことは、本当に良かったと思います。

今は、イエス様のみ許で淳子さんと再会し、安らかな時を持たれている事と思います。

今城輝雄さん、ありがとうございました、兵庫共励会のあゆみを天から見守り下さい。

「菅原 博さんを偲んで」

穂 積 修 司

(日本基督教団隠退教師)

菅原 博さんは、去る2月21日、88年のこの世での生涯を終え、天に召されました。召される前日の20日に、姫路五軒邸教会で、播

州地区の障がい者に関わる委員会がありました。委員である菅原さんは、少し遅れ、タクシーで駆けつけられました。帰りは、中村悦子牧師が車で送られ、無事に帰られたということでしたが、その後、突然、召されたというのを聞いて、驚きましたが、同時に、菅原さんは最後の最後まで、自分に与えられた使命に忠実であった、まさに、神の僕であった、神様が天において、「忠実な僕、良くやった」と菅原さんをねぎらって下さっている、わたしはそう思いました。

菅原さんと出会ったのは、今から40年位前で、わたしが播磨新宮教会の信徒であった時でした。播州地区の社会部の委員として、姫路教会から委員として出ておられた菅原さんと一緒にいろんな活動をしたことが思い出されます。わたしは、1988年から1998年まで、島根県の教会に赴任していましたので、その間、菅原さんと会う機会はありませんでしたが、1998年に播磨新宮教会の牧師として帰って来てから、また、社会部で菅原さんと一緒に、活動を共にしました。

共励会では、長く、役員として奉仕されましたが、2000年からわたしも役員に推薦され、ここでも一緒に活動することになりました。そういうことで、菅原さんとは、一緒に活動したという思い出があります。

そんな中で、わたしが菅原さんについて

思ったことは、普段は寡黙な人で、大声で、意見を言うようなタイプではありませんでしたが、ひとたび、口を開かれると、ビシッと鋭い主張をする方であつたということです。そして、先程紹介しましたように、自分の与えられた使命を忠実に、黙々と果たす方でありました。貴重な働き人がいなくなつてしまつた、そんな思いがしています。理事をしておられた「さきそう福祉会」でお会ひした時、「今、共励会の50年記念誌を作つています」と報告しましたが、発行が遅れてしまひ、お渡しすることができなかつたのが、心残りです。ご遺族の上に、主の慰めをお祈りします。

編集後記

総会の開催が例年より遅かつたこともあり、発行が遅くなつてしまつたことをお詫びいたします。
兼清 章先生のあとを継いで25年間2代目の理事長を担つて下さつた、廣田守男先生が退任され、3代目の理事長として吉田裕恵姉が選任されました。
新しい理事長のもとで、兵庫共励会もジャンプの時を迎えたと思ひます。
皆さま方のご支援とご協力を宜しくお願いいたします。

献金者名

(敬称略)

■ 団 体

在日大韓基督神戸教会・日本基督教団 神戸栄光教会・神戸聖愛教会・神戸愛生伝道所

■ 個 人

國米重行・白井 進・武田多美・谷内 豊・三宅保険事務所

■ 助成金

日本基督教団 兵庫教区伝道部各種伝道委員会・播磨地区障害者にかかわる委員会

正会員会費 32名 賛助会員会費 6名

(氏名は省略させていただきます。)

~~~~~ ありがとうございます。